



2024年4月9日

各位

会社名 株式会社 技研製作所
代表者名 代表取締役社長 CEO 大平 厚
(コード番号 6289 東証プライム市場)
問合せ先 常務執行役員 田内 剛
(TEL 088-846-2933)

2024年8月期 第2四半期決算説明資料に関するお知らせ

2024年8月期第2四半期の決算概要および2024年8月期の通期業績予想等の説明資料を作成いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以上

GIKEN

Construction Revolution



2024年8月期第2四半期(2023年9月~2024年2月)



株式会社 技研製作所 決算説明資料

2024年4月9日
証券コード:6289

本資料において提供される当社および当社グループの現在の方針、経営戦略などの情報のうち、歴史的事実でないものは、将来に関する記述をはじめとする、現在入手可能な情報をもとに構築したいわゆる「見通し情報」を含みます。これらは見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらのリスクや不確実性には、各国の経済状況や業界並びに市場の景況、金利や物価、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

2024年8月期第2四半期 決算概要

業績推移

単位：百万円

	2022/8期		2023/8期		2024/8期	
	上期実績		上期実績	前年同期比	上期実績	前年同期比
売上高	14,218		14,933	+5.0%	15,535	+4.0%
売上総利益 (粗利率)	5,942 (41.8%)		5,694 (38.1%)	▲4.2%	6,009 (38.7%)	+5.5%
営業利益 (営業利益率)	2,786 (19.6%)		2,146 (14.4%)	▲23.0%	2,417 (15.6%)	+12.6%
経常利益	2,864		2,194	▲23.4%	2,590	+18.0%
四半期純利益※	1,893		1,374	▲27.4%	1,849	+34.6%
1株純利益 (円)	68.91円		49.98円	▲27.5%	69.00円	+38.1%

※ 四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

国内、海外売上比較

単位：百万円

	2022/8期	2023/8期		2024/8期	
	上期実績	上期実績	前年同期比	上期実績	前年同期比
売上高	14,218	14,933	+5.0%	15,535	+4.0%
国内売上	12,089	12,766	+5.6%	13,515	+5.9%
海外売上	2,128	2,167	+1.8%	2,019	▲6.8%
海外比率	15.0%	14.5%	▲0.5%pt	13.0%	▲1.5%pt

(注) 2023年6月より海外連結子会社が1社減少

当初予想、実績比較

単位：百万円

	2024/8期		
	上期 当初予想	上期 実績	当初予想比
売上高	15,300	15,535	+1.5%
売上総利益 (粗利率)	5,660 (37.0%)	6,009 (38.7%)	+6.2%
営業利益 (営業利益率)	2,200 (14.4%)	2,417 (15.6%)	+9.9%
経常利益	2,250	2,590	+15.1%
四半期純利益※	1,600	1,849	+15.6%
1株純利益 (円)	59.79円	69.00円	+15.4%

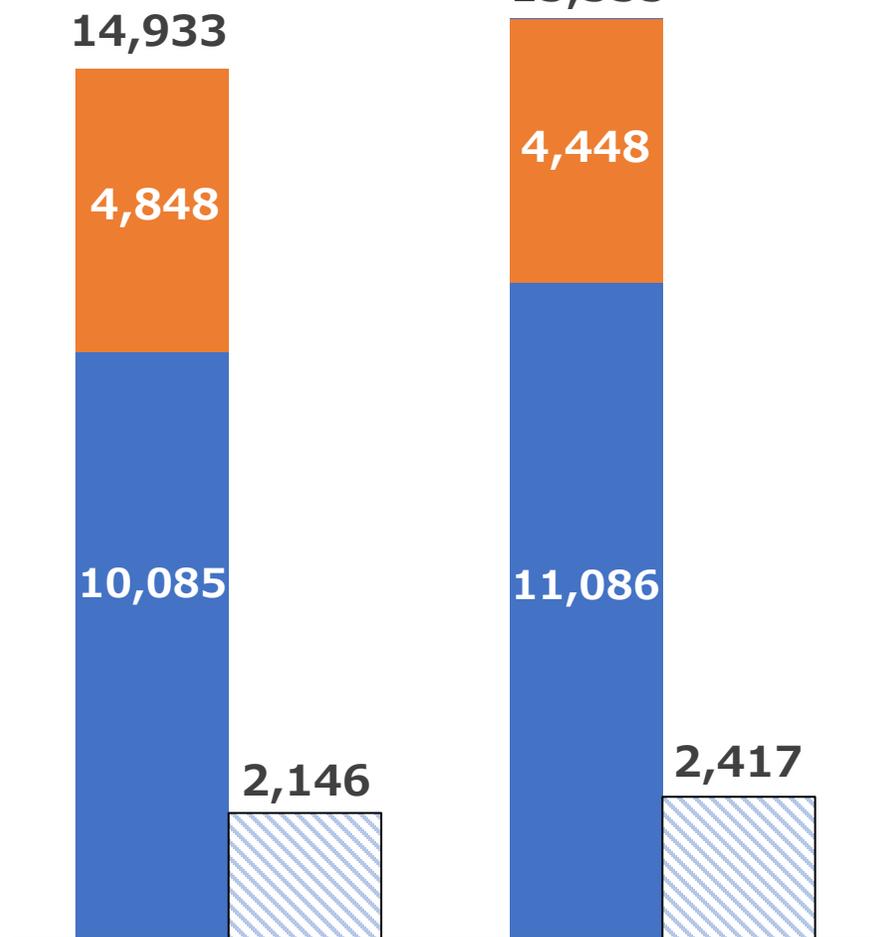
※ 四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高・営業利益 — 前年実績比較

23年8月期
上期実績

24年8月期
上期実績

単位：百万円



【売上高変動要因】

- 建設機械事業
 - ⊕ 海外の製品販売が大幅に増加
- 圧入工事事業
 - ⊖ 2023年6月に海外連結子会社 1 社減

【営業利益変動要因】

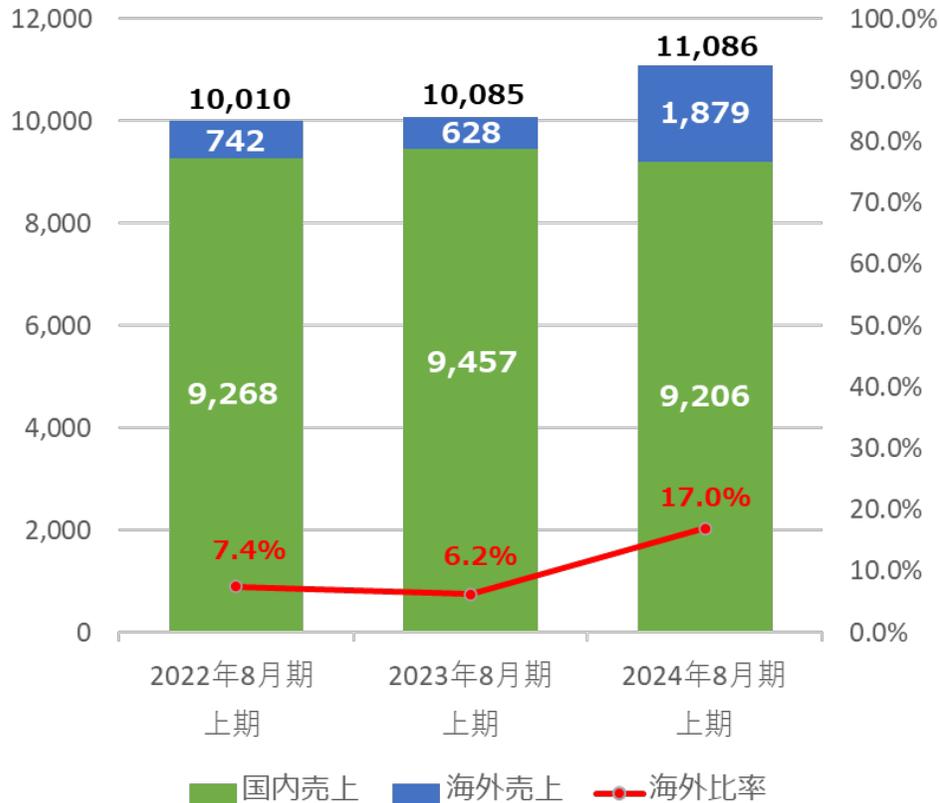
- ⊕ 建設機械事業において、売上増と原価率改善により粗利が増加
- ⊖ 圧入工事事業における連結子会社 1 社減等
- ⊖ 人件費、試験研究費等の販管費増加

■ 建設機械事業売上高 ▨ 営業利益
■ 圧入工事事業売上高

セグメント別売上高推移

建設機械事業

単位：百万円

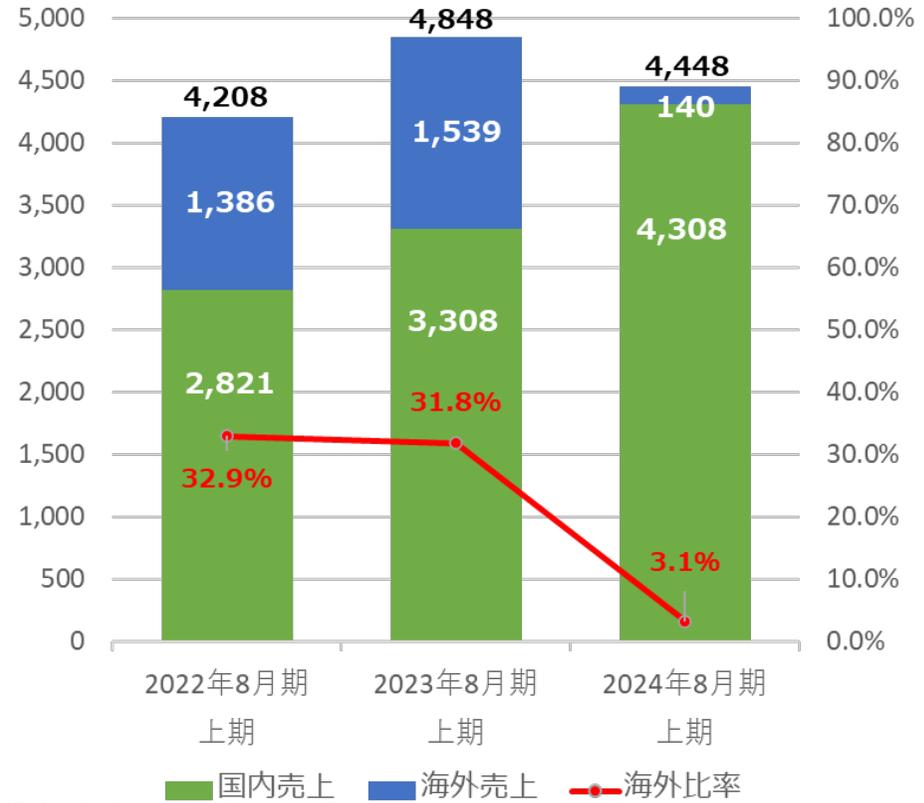


【売上高の変動要因】

- 国内： ⊕硬質地盤対応機「F112」など一般機の販売が順調
 ⊖建設資材価格の高騰等が大型特殊機の販売に影響
- 海外： ⊕市場開拓が進んでいるヨーロッパ、アジア地域で製品販売が進捗
 ⊕戦略再構築中の米国等において従来の活動成果で一時的に売上が増加

圧入工事事業

単位：百万円



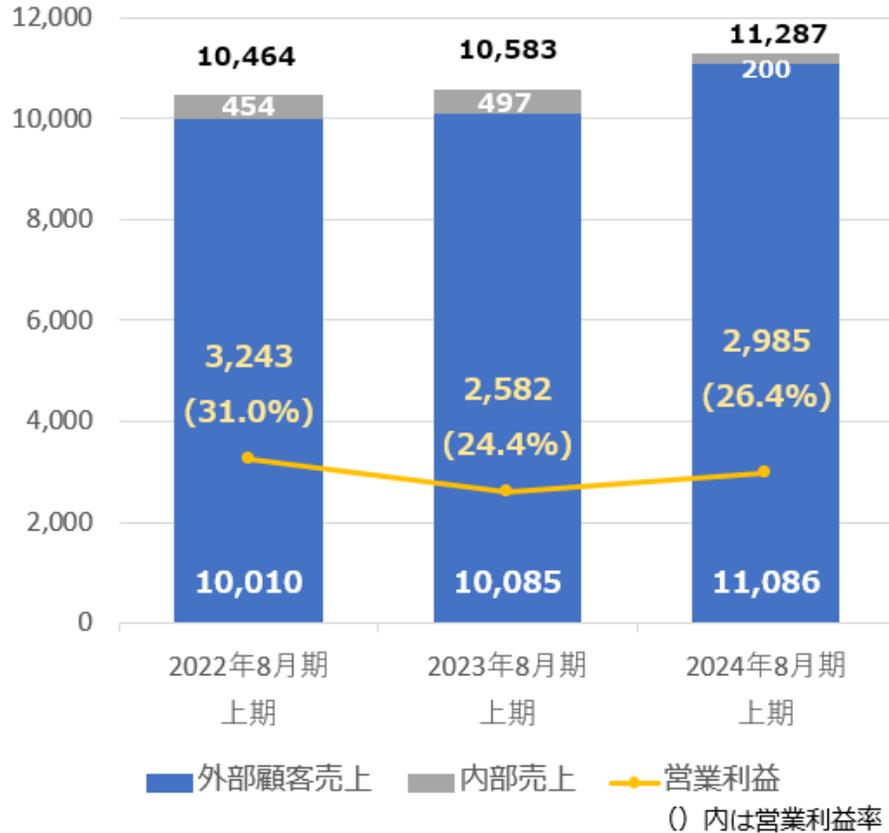
【売上高の変動要因】

- 国内： ⊕災害復興、国土強靱化等で工事を順調に受注
- 海外： ⊖2023年6月の連結子会社1社減によるオセアニア地域での売上減少

セグメント別営業利益推移

建設機械事業

単位：百万円

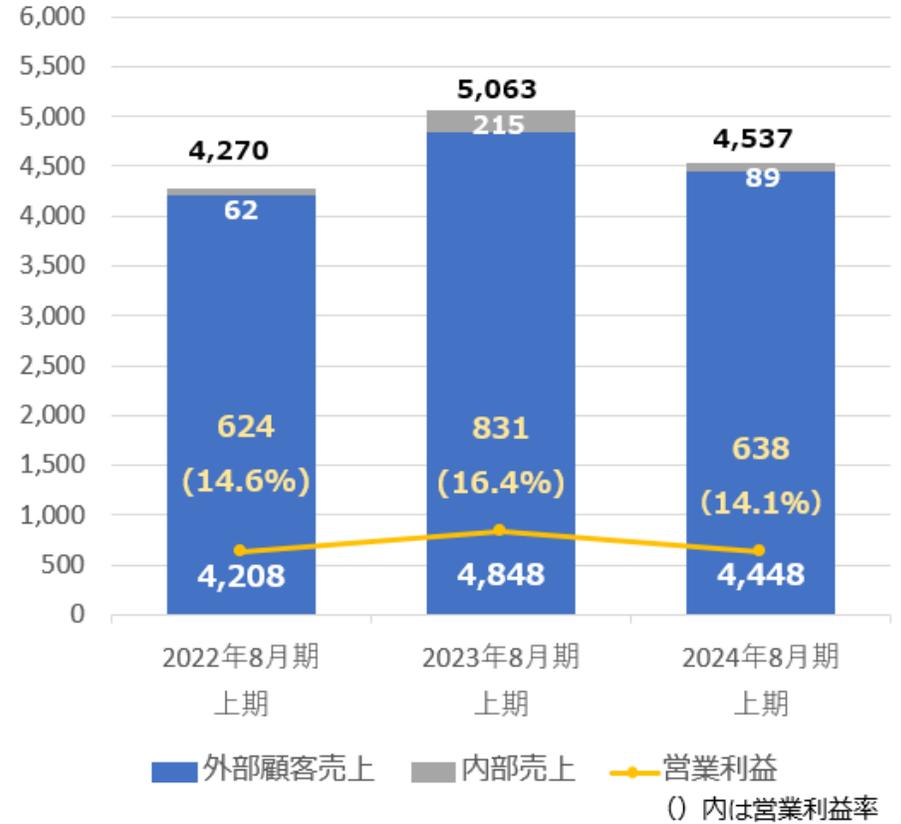


【利益率の変動要因】

- ⊕中国や韓国向け中古製品の販売が粗利増に寄与
- ⊕前期に実施した製品価格の改定が業績寄与
- ⊖人件費、試験研究費など販管費増加

圧入工事事業

単位：百万円



【利益率の変動要因】

- ⊖国内工事は好調に推移するも利益率の高い開発案件減少

売上高・営業利益 — 当初予想、実績比較

24年8月期
上期予想

15,300



4,201

11,098

2,200



24年8月期
上期実績

15,535



4,448

11,086

2,417



単位：百万円

【売上高変動要因】

■ 建設機械事業

- ⊖顧客の設備投資は堅実なもの
製品需要を過大に見積もり
- ⊕米国、韓国における上期計画に
なかった大型特殊機の販売

■ 圧入工事事業

- ⊕開発案件の受注堅調

【営業利益変動要因】

- ⊕中国や韓国向け中古製品の販売が
粗利増に寄与
- ⊕圧入工事事業において、利益率の
高い開発案件の増加により粗利増
- ⊖人件費等の販管費の増加

■ 建設機械事業売上高 ■ 営業利益
■ 圧入工事事業売上高

2024年8月期 業績予想

業績予想

2024年8月期通期予想については10月11日に発表した予想と変更ございません。

単位：百万円

	2023/8期	2024/8期		
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想
売上高	29,272	15,535	14,464	30,000
営業利益	2,983	2,417	882	3,300
経常利益	3,060	2,590	809	3,400
当期純利益※	846	1,849	550	2,400
1株純利益 (円)	30.82円	69.00円	20.68円	89.68円

※ 2023年8月期は、特別損失として関係会社整理損 1,367百万円を計上しております。

※ 当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

上半期の進捗

令和6年能登半島地震を受けて1月下旬、金沢市に臨時事務所開設
現場調査および工法技術提案を継続中



圧入技術への高いニーズおよび期待の高まりを実感
独自の技術力と豊富な実績で当該地域の一日も早い復興に貢献

技研のビジネスモデルを各国で構築

圧入市場の創出：技研力を活用した提案で圧入技術の適用を前提とし、ニーズに対応した案件市場を創出

圧入業界の成長：圧入市場の拡大および社会課題を解決する高付加価値の技術提供を通じ、圧入施工を担う業界を拡大

市場形成が軌道に乗りつつある地域

■ ヨーロッパ地域

- ✓ オランダ・世界遺産の運河護岸改修PJ等で様々なインフラを対象とした圧入市場の形成が順調
- ✓ 業務提携協定を結ぶSeika Sangyo GmbH（本社：ドイツ）と工法普及の取り組みを推進

■ アジア地域

- ✓ シンガポールを中心に案件拡大
- ✓ タイでも河川護岸整備等で市場づくりが順調
- ✓ インドでは2022年8月期に獲得したユーザーが施工継続中。市場拡大へ市場調査開始
- ✓ 中国でパートナー企業と連携した市場拡大が順調
- ✓ 韓国でジャイロパイラーの市場形成順調
- ✓ ODA市場の拡充

その他の地域

■ 南米

- ✓ ブラジルでのビジネス構築に向け、JICA支援を受けて三井物産と共に事業計画を策定（2024年末を目途）し、必要とされるインフラに技術提案

■ 北米、オセアニア地域ほか

- ✓ 圧入市場形成が不十分。地域の特徴を活かした圧入市場拡大戦略の再構築に向けて課題・成果を分析中

GIKENのビジネスモデルを浸透させ、ヨーロッパ、アジア地域を軸に安定成長する市場構造を確立
これを軸にGIKENのビジネスモデルに基づく具体的な行動を各国で実行。海外展開を加速

対象国：オランダ、ドイツ、シンガポール、タイ、中国、韓国、北米、ブラジル等

韓国のユーザーに3台目の「ジャイロパイラー®」を納入
(高速道路、護岸、鉄道近接、災害復旧工事などで活躍中)



導入のきっかけとなった緊急災害復旧工事の様子
(線路横に斜面崩壊防止の擁壁を構築)



Construction Revolution

Implant method change the Worldwide Construction